



外国出張報告書

平成 26 年 8 月 27 日

1. 出張国名 ガーナ
2. 出張月 平成 26 年 6 月
3. 出張目的 アフリカ稲作振興プロにおける農家経済・経営データの収集：B
4. 成果の概要

昨年度は zaw 村の稲作収量は播種時期の干ばつ等の影響で非常に低い水準となった。その結果、今年度の稲作付け農家数、面積ともに大きく減少した。

このように前年の収量によって作付面積は変動する傾向にあり、現地の稲作普及のためには収量の安定化が重要であることが示唆された。

また、稲作農家における主要作物、メイズ、コメ、ラッカセイについて調べた結果、主食であるメイズは販売割合は高くないが肥料が投入されるのに対し、換金作物であるコメ、ラッカセイは殆ど投入されていなかった。

昨年は、コメは不作であったが、ラッカセイは堅調で、当該地域で稲作が普及するためには、このラッカセイの収益性やその安定性が一つの基準となると思われる。